

研究・業績 発表リストー2025年4月～2026年3月ー

安 藤 直 紀 教授

- (学会発表) Productive and receptive skills in English and organizational performance (with Suzuki, M. & Nishikawa, H.), 40th Workshop on Strategic Human Resource Management, 2025年5月
- (学会発表、論文) Local managers' language proficiency and their contribution to foreign subsidiaries (with Suzuki, M. & Nishikawa, H.), Association of Japanese Business Studies Conference, 2025年6月
- (学会発表、論文) Communication-enhancing skills to alleviate language barriers and enhance organizational performance (with Suzuki, M. & Nishikawa, H.), Academy of International Business Conference, 2025年7月
- (学会発表、論文) The effects of communication-enhancing skills in the presence of language barriers (with Suzuki, M. & Nishikawa, H.), European International Business Academy Conference, 2025年12月

池 田 宏一郎 教授

- (論文) A note on stability of generic structures, 京都大学数理解析研究所, 京都大学数理解析講究録 2311, 92-95, 2025年5月
- (講演) A variant of the Hrushovski construction, モデル理論夏の学校&研究集会, 筑波大学総合研究棟, 2025年9月
- (学会発表) タイプが tree property をもつ理論について, 日本数学会総合分科会, 名古屋大学東山キャンパス, 2025年9月
- (講演) On stable theories with the strong tree property, 京都大学数理解析研究所, RIMS 共同研究「モデル理論における独立概念と次元の研究」, 2025年12月
- (学会発表) Strong tree property をもつ理論について, 日本数学会年会, 東京理科大学神楽坂キャンパス, 2026年3月

魚 住 智 広 准教授

- (学会発表) Addressing Coach Shortages and the Mandatory Licensing System: Challenges in Japanese School Sports, International Sociology of Sport Association, 2025年7月
- (書籍の一部) 北海道の生活史, 岸政彦 監修 北海道新聞社 編, p.132-139, 2026年2月

Jana Urbanova (ヤナ・ウルバノヴァー) 准教授

- (招待講演) スロバキアの言語と文化, 成城大学, 世界の言語と文化, 2025年12月
- (論文) Winter in Okinawan Poetry—Reflecting on the Influence of Japanese Poetry from Perspective of Okinawa's Climate, 法政大学言語・文化センター, 『言語と文化』、第23号、p.141-198, 2026年1月

岡 田 庄 生 准教授

- (論文) The Impact of Differences in Regulatory Focus on the Originator Effect of User-Generated Products, Japan Marketing Academy, Quarterly Journal of Marketing 45(3) 237-

245, 2025年6月

(発表) Why Logo Recoloring Enhances Cause-Related Marketing Effectiveness: Mediation by Altruistic Inferences and Moderation by Gender (with H, Ishii), American Marketing Association, AMA Winter Academic Conference, 2026年2月

(発表) ユーザー発案者効果, 法政大学経営学部, 第4回経営学会, 2025年10月

金 容 度 教授

(論文) トヨタ自動車トップマネジメントのキャリアパスと属性分析、1950年代～2010年代、法政大学経営学会、『経営志林』、第62巻、第2号、pp.1-64, 2025年7月

(論文) 日米企業システムの比較史序説(7)―雇用及び労使関係の日米比較史5：戦間期(下)―、法政大学経営学会、『経営志林』、第62巻、第4号、pp.1-22, 2026年1月

(学会報告) 「日本の総合電機企業の変容：日立製作所」(『総合電機企業の解体・変容―戦略と組織から考える―』), 神戸大学大学院経営学研究科, 現代経営学研究所第117回ワークショップ, 2025年5月25日

(書評) 藤本隆宏編(2024)『工場史―「ポスト冷戦期」の日本製造業』有斐閣, 法政大学大原社会問題研究所, 『大原社会問題研究所雑誌』、No. 801、pp.74-78, 2025年7月

木 村 純 子 教授

(著書) イタリア流テリトリーオの底力：デザイン・ファッションから農業・食文化まで, 白桃書房, 2026年3月

(著書) The Potential of Geographical Indications (GI) to Enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan: GI Mishima Potato as a Case Study, Springer, Worldwide Perspectives on Geographical Indications: Crossed Views Between Researchers, Policy Makers and Practitioners, Vandecastelaere, Emilie., Marie-Vivien, Delphine., Thévenod-Mottet, Erik., Bouhaddane, Maria., Pieprzownik, Valérie., Tartanac, Florence. & Puzone, Ida. (eds.)321-332, ISBN-10 303171640X, 2025年4月

(論文(共著)) 日本型テリトリーオ形成の論理：鹿児島県大隅の事例を手がかりに, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 『イノベーション・マネジメント』23, 145-161, 2026年3月(二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真との共著)

(講演) Women and Their Roles in Agriculture and Territorio, Roots of the Future: Women and Innovation in Agriculture between Italy and Japan, seminar at Embassy of Italy, 2026年3月

(講演) From Classic Recipes to the Cuisine of the Future: Identity & Change, Tradition in Evolution: Italian Cuisine between Health, Culture & Innovation, Symposium of Embassy of Italy, 2025年11月

(講演) イタリアのテリトリーオと地域イノベーション, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター主催シンポジウム『持続可能な地域発展：鹿児島県大隅半島テリトリーオのイノベーション』, 2025年11月

(学会) イタリアのテリトリーオ戦略, 日本マーケティング学会カンファレンス2025, 2025年10月

(論文) 地域に根ざした農業・食品システムの競争力：産業集積論からの発展, 『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』278, 1-20, 2025年10月

(招聘講演) GIs in Japan and the EU-Japan Economic Partnership Agreement (EPA), Interna-

tional Association for the Protection of Intellectual Property (AIPPI) World Congress 2025 Yokohama, 2025年9月

(論文) 地域への誇りと愛着が創る持続可能な地域社会, 『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』274, 1-22, 2025年8月

(講演) SSEを加速させる“テリトリー”戦略, 法政大学2025年度SSE公開講座『社会的連帯経済が目指す新しい社会像 徹底対論』, 2025年5月

(論文(共著)) フード・バリューチェーンにおける生産者間の協力と競争: 「大隅テリトリー」の農水産物生産者の事例から, 『法政大学イノベーション・マネジメント研究センター・ワーキングペーパー』272, 1-22, 2025年4月(二階堂行宣・佐野嘉秀・藤本真との共著)

(インタビュー) 暑い日は牛乳で熱中症予防! 牛とともに長く暮らしたい! 豊かな社会とは何か?! 『石川実 DAIRY LIFE』TBSラジオ2025年9月14日
<https://www.tbsradio.jp/articles/100407/>

(インタビュー) 暑い日は牛乳で熱中症予防! 好きな酪農風景をなくさない! 景観をつくる農業の多面的機能! 『石川実 DAIRY LIFE』TBSラジオ2025年9月21日
<https://www.tbsradio.jp/articles/100629/>

(インタビュー) 暑い日は牛乳で熱中症予防! 地域最後の酪農を終わらせない! 農業に対するパラダイムを変える! 『石川実 DAIRY LIFE』TBSラジオ2025年9月28日
<https://www.tbsradio.jp/articles/100859/>

倉田俊彦 教授

(論文) On Reynodls-Hurkens-Coquand paradox and T-algebras, 京都大学数理解析研究所, Kyoto University RIMS Koukyuroku, Vol. 2334, pp. 6--12, 2026年2月

(研究発表) Girard's Paradox and T-Algebras, Kyoto University RIMS Symposium 「Algebras, Logic and Related Areas in Computer Science」, 2026年2月

(研究発表) Girard's Paradox and T-Algebras, 日本数学会2026年度年会, 2026年3月

近藤大輔 教授

(論文) 組織構成員の能力差異がアメーバ経営の人材育成に与える影響—小型補聴器専門店X社の事例—, 日本原価計算研究学会, 『経営会計レビュー』第5巻、第1号、pp.13-27, 2025年7月

(書籍) アメーバ経営が事業承継を円滑にする一ケースで読み解く後継者育成と信頼関係構築, 同文館出版, 単行本、232頁, 2026年2月

(その他(研究プロジェクト)) 原価計算リカレント教育プロジェクト(RM／サービタイゼーション), 日本原価計算研究学会, 2025年度産学連携コストフォーラム関連プロジェクト, 2026年3月

近能善範 教授

(著書(単著)) 破壊的イノベーションのプロセス: PC-98帝国の興隆と衰亡, 白桃書房, 2026年3月

坂 上 学 教授

- (論文) 生成 AI が切り拓く有報分析の最前線——テキストマイニングとの比較を通じて, 中央経済社, 『企業会計』2025 年 10 月号、pp.16-24., 2025 年 9 月
- (論文) 統合報告書の現状と課題, 産業経理協会, 『産業経理』第 85 巻第 3 号、pp.12-22., 2025 年 10 月
- (共編著) 社長検定試験公式テキスト, 中央経済社, 2026 年 3 月

芝 田 隆 志 教授

- (論文) Optimal capital structure with earnings above a floor, Elsevier, European Journal of Operational Research 326 (3), 656--673, 2025 年 11 月
- (論文) Investment, financing, strategic debt service, and liquidation, Taylor and Francis, Quantitative Finance 25 (10), 1639-1655, 2025 年 10 月

高 橋 慎 教授

- (論文) 日米株式市場におけるボラティリティ予測のホライズン非対称性：ロバスト Log-HAR モデルによる実証分析, 大阪取引所, 『先物・オプションレポート』第 38 巻、第 3 号、p1-8, 2026 年 3 月

長 岡 健 教授

- (論文) ラジオ・エスノグラフィーの可能性：ポッドキャスト番組制作を通じた越境活動の試み, コンピュータ利用教育学会, 『2025 PC カンファレンス 論文集』、p257-260, 2025 年 8 月
- (論文) 組織の力となる対話とは ～脱手段化した視点から対話導入をめぐる組織スケープを描く～, 連合総研, 『月刊 DIO』、No.412、p21-24, 2025 年 10 月
- (講演) 社内浸透と組織変革：サステナビリティの対話、サステナビリティの学びほぐし, サステナビリティにおける社内浸透研究会, サステナビリティにおける社内浸透研究会・2025 年 7 月定例研究会, 2025 年 7 月
- (講演) 人材組織マネジメント：フラット化の進展と新しいリーダー象, 法政大学 人事部, 職員の学びプログラム, 2025 年 7 月
- (講演) 「『学び』を『実践』へ発展させる」ことの意味, 三菱地所, 丸の内サマーカレッジ 2025, 2025 年 8 月
- (講演) 越境活動のすすめ ～学び続けるライフスタイルを楽しもう～, 法政大学 卒業生・後援会連携室, 法政フェア 2025・卒業 40 年記念セミナー, 2025 年 9 月
- (講演) 管理職から経営人材へ：凝り固まった自分を解きほぐす, 丸善雄松堂, 人間力育成カリキュラム, 2025 年 11 月
- (インタビュー) 「脱・失われた 30 年」の仕事と学びを考える(前編)：目的思考・コスパ思考ではイノベーションは生まれない, コクヨ株式会社, 『MANA-Biz』 <https://www.kokuyo-furniture.co.jp/solution/mana-biz/2025/11/30-2.php>, 2025 年 11 月
- (インタビュー) 「脱・失われた 30 年」の仕事と学びを考える(後編)：同調圧力のない自由な発想が生まれる場をつくるには?, コクヨ株式会社, 『MANA-Biz』 <https://www.kokuyo-furniture.co.jp/solution/mana-biz/2025/11/30-3.php>, 2025 年 11 月

中 西 善 信 教授

- (MISC) Human as a decision maker in the digital era, Emerald, The Learning Organization, 32(3), 522-528, 2025 年 4 月
- (学会発表) 公務員が知覚する「行政の無謬性」: 神話、主義、前提、そして圧力, 日本経営学会, 日本経営学会第 99 回大会, 2025 年 9 月
- (MISC) Shared leadership for learning organizations and innovation: discover your own leadership style, Emerald, The Learning Organization, 32(5), 872-879, 2025 年 10 月
- (学会発表) 組織学習における失敗黙殺と赦し省察の逆機能のシミュレーション, 経営行動科学学会, 経営行動科学学会 第 28 回年次大会, 2025 年 11 月
- (論文) 政府職員が知覚する「行政の無謬性」: 神話、主義、前提、そして圧力(1), 法政大学経営学会, 『経営志林』第 62 巻第 4 号 65-73 頁, 2026 年 1 月

新 倉 貴 士 教授

- (学会報告) 「ブランド世界観」の変遷: 新聞記事のテキストマイニングによる分析, 日本マーケティング学会, マーケティングカンファレンス 2025, 2025 年 10 月 12 日
- (学会報告) 消費者のブランド・イメージが顧客ロイヤルティの形成に与える影響, 日本商業学会, 第 15 回全国研究報告会, 2025 年 12 月 21 日
- (著書(分担執筆)) デジタル経済下での流通変化と小売マーケティング: 購買意思決定プロセスに着目した流通モバイルアプリの活用, 有斐閣, 『デジタル経済下の消費者行動: 新たな消費の出現とマーケティング対応』, 第 12 章所収, 201-219 頁, 2026 年 2 月 25 日
- (著書(共編著)) ケースに学ぶ消費者行動, 有斐閣, 1-266 頁, 2026 年 3 月 20 日

西 川 英 彦 教授

- (学会発表・招待) ユーザー・イノベーション研究の射程拡張: 理論的深化と適用領域の広がり, 日本商業学会 関西部会 6 月例会, 2025 年 6 月
- (学会発表・査読有) Productive and receptive skills in English and organizational performance (with N. Ando & M. Suzuki), 40th Workshop on Strategic Human Resource Management, 2025 年 4 月
- (学会発表・査読有) Local managers' language proficiency and their contribution to foreign subsidiaries (with N. Ando & M. Suzuki), Association of Japanese Business Studies, 2025 年 6 月
- (学会発表・査読有) Communication-enhancing skills to alleviate language barriers and enhance organizational performance (with N. Ando & M. Suzuki), Academy of International Business, 2025 年 7 月
- (学会発表・査読有) How Does Disclosing Composite Co-creation Information Affect the Evaluation of User-Ideated Products? (with S. Okada), Open and User Innovation Conference 2025, 2025 年 7 月
- (学会発表・査読有) The effects of communication-enhancing skills in the presence of language barriers (with N. Ando & M. Suzuki), European International Business Academy Conference, 2025 年 12 月
- (学会発表) 複合的な共創情報の開示は、ユーザー発案製品の評価にどのような影響を与えるのか?(岡田庄生との共同), 日本商業学会 関西部会 6 月例会, 2025 年 6 月
- (学会発表) 企業内リードユーザー発案製品のラベル効果(渡邊裕也・岡田庄生との共同), 日本

- 商業学会 関西部会 6 月例会, 2025 年 6 月
 (学会発表) ユーザー・イノベーションにおける「不満」の構造, 日本マーケティング学会 複
 都市カンファレンス 2026, 2026 年 2 月
 (学会ポスター発表) 優れたマーケターになるには? 質的データ分析から導くアイデア創出ス
 キルとコンピテンシー(梶原美里・下村菜南子・原田大一・蔵部大輔との共同報告), 日本
 マーケティング学会 マーケティングカンファレンス 2025, 2025 年 10 月
 (シンポジウム講演) 「軽いコラボ」の可能性: 「重い／軽い」という視点, 法政大学イノベ
 ション・マネジメント研究センター シンポジウム, 2026 年 3 月

藤 井 誠 教授

- (論文) 公益法人会計基準改正の経緯と課題, 横浜経営学会, 『横浜経営研究』第 46 巻、第 1
 号、pp.29-43, 2025 年 9 月
 (論文) 物価変動と税制, 日本税務研究センター, 『税研』第 41 巻、第 1 号、pp.34-40, 2025
 年 11 月
 (論文) 「収支相償」から「中期的収支均衡」への改正と法人に求められる対応, 全国公益法人
 協会, 『公益』第 1125 号、p.39-44, 2025 年 12 月
 (学会報告) 統一論題報告「税務会計における複式簿記構造と課税所得」, 東洋大学, 日本簿記
 学会第 41 回全国大会, 2025 年 8 月
 (学会報告) 特別委員会中間報告「公益法人制度改革」担当「財務規律の柔軟化・明確化」, 熊
 本学園大学, 非営利法人研究学会第 29 回全国大会, 2025 年 10 月
 (学会報告) 特別委員会中間報告「損金経理要件」, 近畿大学, 税務会計研究学会第 37 回全国
 大会, 2025 年 10 月

福 田 淳 児 教授

- (論文) 社会的企業におけるマネジメント・コントロール・システムの役割, 法政大学経営学
 会, 『経営志林』、第 62 巻、第 1 号、pp.1-26, 2025 年 4 月

洞 口 治 夫 教授

- (論文) Organization philosophy: A study of organizational goodness in the age of human and
 artificial intelligence collaboration. *AI & Society: Knowledge, Culture and Communication*,
 Vol. 40, pp.1961-1973, (2025). (査読有) DOI, <https://doi.org/10.1007/s00146-024-01980-6>
 -6
 (書評)[名著探訪]「無意識の触発と仮説醸成ー吉原英樹『中堅企業の海外進出ー 6 社の成功例に
 みるー』東洋経済新報社、1984 年ー」『国際ビジネス研究』第 17 巻第 1 号、pp.59-64、
 2025 年 5 月 31 日 .-
 (学会報告・統一論題)「経営学研究の評価ー基準と方法ー」日本経営学会第 99 回全国大会、開
 催日 2025 年 9 月 2 日～5 日、統一論題サブテーマ 3「経営学研究の評価」9 月 4 日 15:00
 ～ 17:40、会場・西南学院大学 .
 (学会報告・統一論題)「国際ビジネス研究の理論的基層ー取引費用の経済学から組織哲学へー」
 国際ビジネス研究学会 第 32 回年次大会「変動する世界、変革する組織」開催日 2025 年
 10 月 18 日～19 日、統一論題 10 月 18 日 10 : 10 ～ 10 : 50、会場・京都大学(吉田キャ
 ンパス 百周年時計台記念館 百周年記念ホール)

牧 草 夏 実 専任講師

(講演) カーネルリッジ回帰における正則化パラメータの決定：罰則付き尤度によるアプローチ, 「確率最適化とその応用」(第16回)研究部会, 上智大学四谷キャンパス, 2025年6月

(学会発表) カーネルリッジ回帰における罰則付き尤度に基づく正則化パラメータの決定, 2025年度統計関連学会連合大会, 関西大学千里山キャンパス, 2025年9月

(講演) カーネルリッジ回帰における正則化パラメータの決定ー罰則付き尤度に基づく方法ー, 科研費シンポジウム「データサイエンスの分野横断的基盤と実践の探求」, 鹿児島大学郡元キャンパス, 2025年11月

羅 鵬 飛 准教授

(論文) Global Risk Factors and Their Impacts on Interest and Exchange Rates: Evidence from ASEAN+4 Economies (Eiji Ogawa and Pengfei Luo), MDPI, Journal of Risk and Financial Management, 18(7), 344, 2025年6月

(論文) アジア金融政策と為替レートの構造変化(小川英治・羅鵬飛), 日本証券経済研究所, 『証券経済研究』, 133号、25-57, 2026年2月

